授業科目名・形態	介護総合演習Ⅰ　　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	石岡和志　柴田博　今野修	実務経験の有無	有	開講期	1年後期
科目ナンバリング	W6-1001c				

【授業の主題】

介護実践に必要な知識と技術の統合を行なうとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。また、実習の意義や目的などを踏まえて、実習の心得、実習記録の書き方など実習に向けた基本的な準備を行う。介護実習Ⅰに出る前の演習であり、訪問介護やデイサービス、小規模多機能型居宅介護等サービスなど、居宅型サービスについて学習する。

【到達目標】

1．事前に実習施設に関する理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術の統合を学生が出来るようになる。
2．学生が介護に興味や関心を持ち、実践したいという気持ちになること。
3．実習記録の書き方を習得する。

【授業計画・内容】

第 1 回　介護実習の意義と目的
第 2 回　介護実習と専門科目との関連
第 3 回　実習施設についての理解（障害者支援施設）
第 4 回　実習施設についての理解（重症心身障害児施設・救護施設）
第 5 回　老人居宅生活支援事業・老人デイサービスについての理解
第 6 回　実習の心得
第 7 回　介護実習前の介護技術の確認
第 8 回　専門職に求められる福祉の理念、職業倫理について
第 9 回　実習記録の書き方（本学様式）①
第 10 回　実習記録の書き方（本学様式）②
第 11 回　実習記録の書き方（本学様式）③
第 12 回　実習記録の書き方（本学様式）④
第 13 回　各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）
第 14 回　各実習施設担当教員による事前指導（実習計画等）
第 15 回　介護実習Ⅰに関する諸注意事項の確認と実習最終準備作業

【授業実施方法】

基本的には演習形式としながら、講義も交える。本演習はプロジェクターを用いた視聴覚プレゼンテーション、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を行う参加型授業形態で実施する。

【事前・事後学習】

毎回、テキストを中心に 30 分の予習及び演習内容を踏まえた 30 分の復習を行うこと。また、認知症のグループホームやデイサービスなど通所介護については事前学習しておくこと。

【主な関連する科目】介護過程、介護の基本、高齢者福祉論、障害者福祉論、認知症ケア論

【教科書等】最新・介護福祉士養成講座 10　介護総合演習・介護実習　第 2 版　中央法規出版

【参考文献】必要時に資料を配付する。

【成績評価方法】

授業態度等 10%、授業内での発表 30%、レポート及び実習計画書等の提出物 60%で総合的に評価する。60%以上の得点で合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設で介護職員として介護業務を経験してきた。介護現場での経験を活かし、利用者主体の介護が提供できるように指導していきたい。

【学生へのメッセージ】

実習施設の概要などを主体的に調べ、介護実習が実りあるものとなるよう積極的な授業参加を期待する。